

# なが よし てん じん だん 永吉天神段遺跡

- 1 所在地 曾於郡大崎町永吉
- 2 起因事業 東九州自動車道建設
- 3 調査年度 平成24年度～
- 4 主な時代 旧石器時代, 縄文時代, 弥生時代, 古代
- 5 遺跡の概要

永吉天神段遺跡は、<sup>もちどめ</sup>持留川と<sup>はさ</sup>田原川に挟まれた標高50m程のシラス台地上に立地しています。発掘調査では、縄文時代早期末（約7,300年前）の地震に伴う<sup>えきじょうかげんしやう</sup>液状化現象の跡、縄文時代前期（約6,000年前）の土器や石器、弥生時代（約2,200年前）及び平安時代（約1,200年前）の集落跡が発見されました。

## 6 注目される成果

### (1) 縄文時代早期の地震痕跡<sup>こんせき</sup>

約7,300年前の地震による液状化現象の跡（<sup>ふん さあと</sup>噴砂跡）が発見されました。噴砂跡は、<sup>こう かかるいし</sup>アカホヤ火山灰層の降下軽石と火山灰の間に存在するので、現在の三島村近海にある<sup>きかい</sup>鬼界カルデラの大噴火に伴う地震によるものと考えられます。液状化現象は、震度5以上の揺れで起きるとされており、当時これに相当する揺れがあったことが分かります。

南海トラフに伴う地震では、震度6が想定されており、この地域の減災・防災を考える上で重要な資料です。

### (2) 縄文時代の生活跡

鬼界カルデラの噴火後しばらくして、縄文人が生活を始めました。遺跡では、縄文時代前期（約6,000年前）の<sup>そばた</sup>曾畑式土器と呼ばれる縄文土器や<sup>こくようせき</sup>黒曜石の破片、<sup>すりいし</sup>石皿・磨石などの石器が見つっています。縄文人は狩猟・<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>採集を中心に生活していたと考えられますが、土器・石器の出土量が少なく、<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>竪穴住居跡も発見されていないことから、滞在期間は短かったようです。

縄文時代の終わり頃（約2,700年前）になると再び縄文人が帰ってきます。竪穴住居跡が1軒発見されており、その周辺では土器や木材加工用の<sup>せきふ つちほ</sup>石斧、<sup>せきぞく</sup>土掘り具、<sup>せきすい</sup>石鏃、石錐などが多数出土しました。一定期間の定住があったことがうかがえます。

### (3) 平安時代の集落跡

9世紀頃の<sup>ほったてばしらたてもん</sup>掘立柱建物跡が6棟発見されました。建物跡は、建物の方向から2～3棟が同時に建っており、重なりがみられることから立て替えが1回行われたようです。周辺からは、<sup>はじき</sup>土師器、<sup>すえき</sup>須恵器、<sup>とうす</sup>鉄製刀子、<sup>ぼうすいしゃ</sup>土製紡錘車、<sup>やきしお</sup>焼塩土器が出土しました。建物規模や出土品から、一般的な農村であると考えられます。



約7,300年前の噴砂の跡



平安時代の建物の柱跡

